

## 教育講演 I

### 子どもを応援するとは？ ―作業療法士の関わりの分析―

長岡 千賀 氏 (追手門学院大学 経営学部 准教授)

人と人の相互作用において、非言語行動がどのように生じているか、そして参加者の心の動きがどのようなときにどのように生じるのかについて、心理学的観点から研究してきた。ここでは、自閉スペクトラム症児の作業療法を分析対象とした検討を紹介することにより、子どもを応援することについて考察したい。

分析したのは主に、セラピストの言葉がけ、そして活動についての手順の発案（難易度を調整するなど）であった。熟達したセラピスト（以降では、熟達者と呼ぶ）と経験年数の短いセラピスト（非熟達者）、さらに複数の熟達者を比較することによって、熟達者の関わり方の特徴を明らかにすることを試みた。言葉がけを分析するために、その言葉がけがその文脈においてどのような機能を果たしているかを考え、分類を行なった。

分析した結果から、熟達者の言葉がけは、子どもの行為の流れに沿って生じていることが示された。まずは活動の目標が、子どもによる設定、または、セラピストによる提案（あるいは具体化）によって生み出されていた。そしてその目標を達成するためのプランニングとその詳細化の段階では、セラピストによる「環境提案」「計画要求」「誘導」の言葉がけや手順発案が生じていた。子どもによる活動の開始や途中の段階には、セラピストの「合図」や「実況」の言葉がけが生じていた。その直後には、セラピストの「感動表出」と「省察要求」の言葉がけが生じ、子どもは環境や自分に何が起こったかを知覚し、その意味を解釈し、結果と予測を比較していた。非熟達者事例では、熟達者の事例で見られるような細やかな言葉がけは認められなかった。加えて、こうした言葉がけの細やかさは、熟達者事例において一貫して観察されるのではなく、活動の子どもにとっての難易度に応じて変化し、相対的に難易度の低い活動では言葉がけが減少していた。

熟達者のこうした関わり方から、子どもが環境と関わる／関わろうとしている様子を、熟達者はつぶさに読み取り、言葉がけや手順発案によって適宜サポートしていることが垣間見られる。このとき、子どもの行為の何を手がかりとして読み取るかが重要な観点になりそうである。子どもの一人遊びのビデオを、作業療法学専攻の大学院生と、5年以上の経験のあるセラピストに見てもらい、考えたことやその手がかりについて報告してもらったところ、同じ動画であっても、子どもの行為の何に着目したかが群間で異なるようであった。経験者ほど、子どもがどのように遊び、遊びがどのように進んでいるかをより詳細に報告し、かつ、子どもがその遊びについてどのようにイメージしているかについて言及した。当日は、この結果も踏まえて考察したい。

## 講師略歴

---

1999 年 大阪大学 人間科学学部 人間科学科 卒業  
2001 年 大阪大学 大学院人間科学研究科 博士前期課程 修了  
2004 年 大阪大学 大学院人間科学研究科 博士後期課程 修了  
2004 年- 京都大学・日本学術振興会 特別研究員(PD)  
2008 年- 京都大学・日本学術振興会 特別研究員(RPD)  
2011 年- 京都大学こころの未来研究センター 非常勤研究員  
2012 年- 京都大学こころの未来研究センター 特定助教  
2013 年- 現在 追手門学院大学経営学部 准教授

### 【主な著書】

- ・カウンセリング対話における「聴き方」(子安増生・杉本均編, 幸福感を紡ぐ人間関係と教育) 長岡千賀, 吉川左紀子, ナカニシヤ出版 2012 年 1 月 (ISBN: 9784779506161)
- ・会話の「間」(日本認知心理学会監修, 三浦佳世編, 現代の認知心理学, 第 1 巻知覚と感性) 長岡千賀, 北大路書房 2010 年 8 月 (ISBN: 4762827185)
- ・同調傾向 (社会言語科学会講座－関係とコミュニケーション－大坊郁夫・永瀬治郎編) 中村敏枝, 長岡千賀, ひつじ書房 2009 年 (ISBN: 4894762471)
- ・Embodied synchrony in conversation (,Nishida, T. ed, Conversational Informatics: An Engineering Approach.) Nagaoka, C, Komori, M, Yoshikawa, S, John Wiley & Sons 2007 年 11 月 (ISBN: 0470026995) など

・・・その他講演や論文多数